

令和6年第10回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	令和6年10月24日（木曜日） 午後1時42分から4時2分まで
会議開催の場所	市役所501会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・山川治美・島村由起男・馬場優子
欠席委員の氏名	芳澤佐織
説明員の職氏名	教育部長 滝沢淳・教育部参事 長嶋伸一・教育総務課長 中條智則・学校教育課副参事 澤田秀一・生涯学習課長 吉野修・生涯学習課副参事 松本尚也・高萩北小学校校長 橋本泰伸・高萩北中学校校長 島津芳久・高萩公民館長 湯本考一
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 大河原夏樹
傍聴者数	なし
会議資料の名称	会議次第、教育長報告

議題及び決定事項等

議題なし

会議の経過

- 1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認
- 2) 教育長報告の要旨
 - 教育委員会部課長会議、校長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。
 - その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。
- 3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

(委員) 高萩北地区の小中一貫教育の取組について、小学校と中学校に距離があるため難しいところもあると思う。その中で、小中の交流事業を実施しているが、小学校1年生や2年生といった低学年対象の事業は行っているのか。

(高萩北小学校校長) 小学校2年生は生活科で学校周辺探検があるので、今後その活動の中で、中学校に行くことも考えている。小学校1年生については、年度当初に校内の探検や遊具の使い方、トイレの使い方などがあるので、例えば、遊具の使い方などを中学生に教えてもらってもよいと考えている。

(委員) 高萩北地区には、幼稚園と保育園もあるので連携していくことを考えてもよ

- いかかもしれない。高萩北地区ならではの特色を持った教育を実践しても良いと思う。教員が出向いていき、早いうちから現状を把握するのは大切なことである。
- (委員) 高萩北地区青少年健全育成の会を移行、集約して地域学校協働本部としたとあるがどういうことか。
- (高萩北中学校校長) 高萩北地区は青少年健全育成の会の活動が活発であったため、そこが母体となって地域学校協働本部を設立した。設立当初は、別組織としていたが、今は1つの組織になっている。
- (委員) 地域連携は地域のキーパーソンを入れないとうまくいかないと聞いたことがある。高萩北地区は地域が協力的であるが故に、学校側の機動力も大切にしなければならない。
- (教育長) 高萩北地区は、地域が協力的で、域内に幼稚園や保育園、高校もある。地域の特色を生かした教育を行っていければと思う。
- (委員) 幼稚園、保育園に出向いていくことは、忙しい中で大変であると思うが、大切なことである。
- (教育長) 幼稚園や保育園とは連携を深めていけたらと思っている。年長の時はお兄さん、お姉さんとして園で活躍していたが、小学校にあがると年少扱いになってしまう。同じことが中学校にあがるときにも言える。そこで連携ができていれば、真の姿を見て次につないでいけると思う。
- (委員) 小中一貫教育について、保護者や地域はどうとらえているか。
- (高萩北中学校校長) 様々な行事を実施するときに、保護者の方の話を聞くと、小学校と中学校で一緒に実施するのが当たり前という風潮になってきていると感じる。
- (委員) 市内では義務教育学校が3校となるが、そこの違いについて保護者はどう感じているか。
- (高萩北中学校校長) 学校規模の違いもあり、一つの学校になるのはまだ難しいが、一貫教育は続いていくと感じていると思う。
- (委員) 教職員や児童生徒はどう思っているのか。
- (高萩北小学校校長) 教員の意識は少しずつ高まってきていると感じている。小中一貫を意識したアイデアをもらうこともある。児童は小中での交流が増え、学年が上がるにつれて意識が高まっているように見える。中学生へのあこがれもある。
- (委員) 小学校と中学校の体育着を同じものに変更したのは、いつごろから検討していたのか。
- (高萩北中学校校長) コロナ禍前に検討を始め、コロナ禍で検討がストップしていたが、ここで実現できた。
- (委員) 洋品店とはどう調整したのか。在庫などの問題もあると思う。
- (高萩北小学校校長) 在庫はあったが、洋品店の協力で値引き販売を行い、だいぶ在庫は減少しているようである。
- (委員) 小中一貫の取組を地域や保護者へどのようにアピールしているのか。
- (高萩北中学校校長) 地域や保護者に行事に積極的に参加してもらうことによって、認知してもらっている。
- (委員) 分離型の小中一貫校では校長がそれぞれいるので、人事異動で校長が変わると、連携が後退してしまう恐れがある。継続していけるよう引き継いでもらいたい。

- (委員) 給食無償化について、支援の対象となるのはどういった家庭か。
- (教育部長) 基本的に市内公立学校に在籍している児童生徒については、給食費は無償とし、アレルギーなどの事情により、全く喫食していない子どもや、私立学校や特別支援学校などに通う子どもを支援対象としている。子育て世帯への支援策という位置づけとしている。
- (委員) ウイルス性の胃腸炎の学級閉鎖で、閉鎖後に封じ込めに成功したのはよかったと思う。
- (委員) 地区の体育祭について、分館対抗ではない流れとなっており、各地区の分館長としての役割は無くなりつつある。
- (教育長) 基本は今までどおり分館対抗とした方が、人も集まり、盛り上がるのではないかと考えるが、分館によって温度差があるのも事実である。
- (委員) 高萩地区を見てみると、高齢化が進んでおり若い世帯が少なく、分館対抗が成り立たなくなっている。地元の人は強制的に選手として出なくてよいという安心感を持っている。今はコロナ禍明けで久々の行事の復活であるが、今後はどういう方向で行っていくのか市から指針を示していかなければならないと思う。
- (教育長) 居住する高根地区では、以前は若い人が多く3つの祭りがあった。体育祭も盛り上がっていた。今は高齢化が進み、祭りも無くなってしまい、体育祭にも人が出せない状態である。なので、今の子どもたちの地域の思い出が何もなくなってしまった。地域の子どもたちに何の思い出も作ってあげられないと思うと、大きな問題であると感じている。
- (委員) 盆踊りのやぐらの組み方がわからなくなり、体育祭のテントもカビだらけに、一つ一つ困難なことが増えてきている。コロナ禍の4年で大きく後退したが、戻すのには倍以上の時間がかかると思う。子ども会も年々減少している。
- (委員) 教えない教育について、模索で終わらせず、教育委員会としての指針を示していったほうがよい。基準となるマニュアルのようなものは必要であると思う。教員が迷走し続けてしまうのはよくないと思う。
- (委員) ICT を活用した遠隔教育について、技術家庭のような教科では、2次平面では伝わりづらいのではないのか。
- (教育長) 実技や実習は遠隔授業に不向きなため、対面で実施するようにとされている。授業の内容に応じて導入するものである。
- (委員) 給食費無償化について、今までは、例えば3か月学校に行かない場合、その間の給食費は支払わないということが認められていたが、無償化後はどのように扱うのか。
- (教育部長) 給食費については、市内の公立学校に在籍していれば、無償とし、何らかの事情で休む子どもへ食費の支援は行わない予定である。
- (委員) 高麗川地区の学校運営協議会で、アンケート調査の結果を見たが、「学校へ行くことが楽しいか」という回答が平均と比較して低い結果であった。学校に行くことが楽しいと思えるような魅力ある学校づくりをしてもらいたい。また、「人が困っているときに助けるか」や「人の役に立つ人間になりたいか」には高いが、「地域や社会をよくするために何かしたいか」には低い結果であった。子どもたちに思い出となる取り組みがあればよいと思う。郷土を愛する心を醸成させることも

大切であると思う。

(教育長) 学校が楽しい場であるというのは重要なことなので、特色ある学校づくりを進めて行くことは大切である。

4) その他

(1) 次回定例会の日程等について

○11月定例会：11月28日（木曜日）午後1時40分から 委員了承

○12月定例会：12月17日（火曜日）午後1時40分から 委員了承

上記会議のてん末を記載し、その相違ないことを証するために下記に署名する。

令和 年 月 日

教 育 長

教育長職務代理

委 員

委 員

委 員

書 記
